

B調査で対象とした白幡地区の人々は、いつ頃、どこから横浜市へ転入し、現在地に住むことになったのであろうか。世帯主の方が、この土地にくる前に住んでいた地域を、具体的に書き込んでもらった<表32>。

それによると、生れてからずっと住んでいる“土地っ子”が39名<13%>、区・市内移動をしたものが132名<44%>で、以前から横浜市の住民であったものは、約6割だった。そして、残りの4割のものが、神奈川県他都市や東京都、その他の府、県から転入した、という結果であった。この転入状況だけをブロック別にみると、東横線に一番近い白幡町・上町には、市内移動ならびに東京都からの転入者が多く、向町では、他府県からのものが多く目についた。また、西町では、区内からの転入者が約3割、東京都からのものが約2割で、土地っ子の比率が1割を欠いていた。逆に、土地っ子の比率が、4ブロックのなかで一番多かった東町・南町では、土地っ子に区・市内移動のものをあわせると、以前から横浜市の住民であったものが、約7割になった。

つぎに、居住年数をみると、17年以上<昭和30年以前から>のものが4割強、30年から40年までの日本経済の高度成長期に転入したものが2割、そして、7年未満のものが4割弱、という結果であった。昭和35年<居住年数12年>を境にして、新旧住民の数は、ほぼ半分づつということになる。

ここで、調査対象者の居住年数と、先ほどの世帯主の前住地とをクロス集計して、居住年数3年未満のものの転入経路をみてみると、区・市内移動をしたものが5割、神奈川県他都市や東京都、その他の府・県から転入したものが約5割で、両者の数は半々になっている。この3年未満の居住年数の人だけに、「白幡地区の生活環境は、前住地にくらべて、住みやすいと思うか、住みにくいと思うか」どちらか一方をえらんでもらった<表32>。その結果、「住みやすい」と回答したものが34名<61%>、「住みにくい」と回答したものが20名<36%>で、「住みやすい」と評価したものが多かった。

では、白幡地区に住んでいて、この地区が、以前より住みやすくなったかどうか、296名全員にきいてみよう。その結果は、表33のようだった。

表32—世帯主の方が、この土地にくる前にお住みになっていたのは、どこですか。具体的に記入してください。

居住年数	1. 区内	2. 市内	3. 神奈川県	4. 東京都	5. その他の府・県	6. 生れてからずっと住んでいる	計
1. 3年未満	13 (23%)	15 (27%)	6 (11%)	9 (16%)	11 (20%)	2 (3%)	56 <19%>
2. 7年未満 <昭和40年以降>	15 (28%)	14 (26%)	1 (2%)	11 (20%)	8 (15%)	5 (9%)	54 <18%>
3. 12年未満 <35年以降>	2 (7%)	8 (28%)	4 (14%)	3 (10%)	7 (24%)	5 (17%)	29 <10%>
4. 17年未満 <30年以降>	3 (10%)	10 (32%)	5 (16%)	3 (10%)	9 (29%)	1 (3%)	31 <10%>
5. 17年以上 <30年以前から>	27 (21%)	25 (20%)	16 (13%)	13 (11%)	19 (15%)	26 (20%)	126 <43%>
計	60 (20%)	72 (24%)	32 (11%)	39 (13%)	54 (18%)	39 (13%)	296 100%

3年未満の居住年数の人 (1. 住みやすい 34<61%> 2. 住みにくい 20<36%> 注> ()内は横集計
3. わからない 2<3%> 計 50<100%> < >内はタテ集計

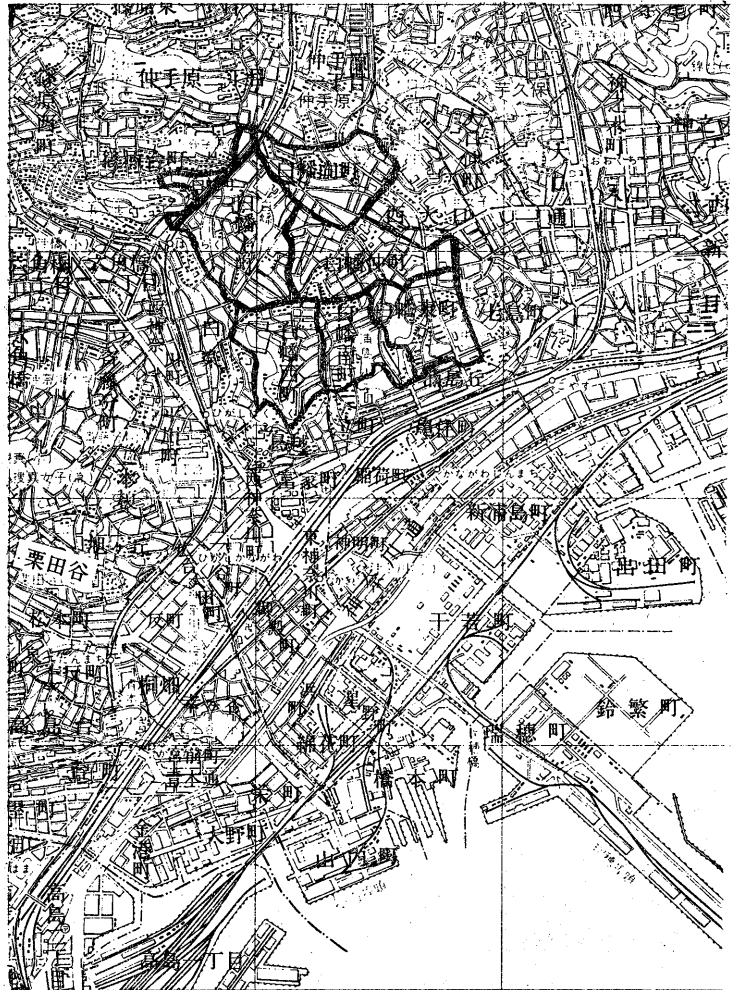
とにかく「よくなった」と回答した①, ②, ③のものが59名(20%)逆に, ④, ⑤, ⑥で「わるくなった」をえらんだものが111名(38%)で, 生活環境や人間関係がわるくなった, と回答するものの方が多かった。また, ⑦「変らない」⑧「わからない・関心がない」の回答は, 社宅, 民間アパート, 間借り, などの住宅に住む人々のあいだで多かった。

それでは, 人間関係は別として, 生活環境の問題で, 住みにくくなった理由はなにか, いま, 一番不満に感じている問題を一つだけあげてもらった<34表>。それによると, 9割近くの住民が, 地域の生活環境に不満を感じ, 具体的な問題を訴えている。前の質問で, 「生活環境がよくなった」と回答したものが2割もいたのに, ここでは, ⑨「とくにない」と回答したものが31名で, 約1割に減少し, 「生活環境がよくなった」と答えたもののなかにも, 地域の生活環境に不満をもっている人の多いことがわかった。それぞれの回答は, 一つの問題に集中することなく, 生活環境に関連するほとんどの問題に分散し住民のあいだには, 多様な要求が潜在していることを示した。

表33—あなたは, お住まいになっていて, このあたりが, 以前より住みやすくなったと思いますか。次のなかから一つだけえらんでください。

1. 生活環境が, よくなった	37<12%>	} 小計 59<20%>
2. 人間関係が, よくなった	5<2%>	
3. 生活環境も, 人間関係も, よくなった	17<6%>	
4. 生活環境が, わるくなった	55<19%>	} 小計 111<38%>
5. 人間関係が, わるくなった	9<3%>	
6. 生活環境も, 人間関係も, わるくなった	47<16%>	
7. 変らない	98<33%>	
8. その他<具体的に>	7<2%>	
9. わからない・関心がない	21<7%>	
計	296<100%>	

図2 <白幡地区略図>



まず、④「下水道の整備や川の改修」、①「道路の舗装などの整備や交通安全・混雑対策」の2つが同率で第1位。②「公害」、③「水道・市営交通・清掃・保健・衛生」などの問題が、これも同率でつぎにならび、⑥「住宅や土地問題」⑦「公共空地」⑤「教育文化・社会福祉施設」が、これに続いていた。

しかし、ブロック別にみると、この順位には、かなりの違いが認められ、地域の特徴が浮きぼりにされていた。白幡町・上町では、④「下水道・河川」を回答するものが約3割で、第1位だった。向町では、③「水道・市営交通・清掃など」と④「下水道・河川」が約2割づつ、西町では、①「道路・交通対策」と⑦「公共空地」が同率で、それぞれ第1位になっていた。第1京浜国道に近い東町・南町では、②「公害」がトップで、これに①「道路・交通対策」が続いていた。また、性別にみても、通勤ラッシュに悩む男性のあいだでは、③「水

道・市営交通・清掃など」、④「下水・河川」、②「公害」の順位、女性では、①「道路交通対策」④「下水・河川」、②「公害」の順位であった。居住年数別にみると、3年未満のものあいだでは、⑤「教育文化・社会福祉施設」、⑥「住宅・土地」を求める声が強く、7年以上17年未満のものあいだでは、①「道路・交通対策」が多い。⑥「住宅・土地」については、12年未満までのものの共通の悩みであり、それ以上のものには少なかった。そして、17年以上のものあいだでは、④「下水道・河川」への要求が多かった。

2——要求をめぐる住民相互の関係

生活環境に対する不満や具体的な問題、またこれに対する役所の仕事ぶりなどについて、地域の住民は、おもに、どのようなところで話しあっているだろうか。

まず、近所で、関心のある人たちと話しあったことがあるかどうか<35表>。

表34——あなたの近くの生活環境で、あなたが、いまいちばん不満に感じておられるのは、次の問題のうちどれですか。一つだけをえらんでください。

1. 道路の舗装などの整備や交通安全・混雑対策	49<17%>
2. 大気のごれ・騒音・振動・悪臭などの公害	42<14%>
3. 水道・市営<バスなど>交通・清掃<ゴミや便所のくみとり>保健・衛生	40<14%>
4. 下水道の整備や川の改修	50<17%>
5. 図書館・スポーツ施設などや保健所・老人・身体障害者施設など教育文化・社会福祉施設	22<7%>
6. 住宅や土地問題	28<9%>
7. 防火・防災や緑の確保・公園・ちびっこ広場など公共空地	24<8%>
8. その他<具体的に>	10<3%>
9. とくにない	31<11%>
計	296<100%>

表35——それでは、それらの不満について、関心のある人たちと話しあわれたことがありますか。次のなかから、一つだけえらんでください。

1. たびたびある	83<28%>
2. 1~2度ある	67<23%>
3. ない	146<49%>
計	296<100%>

「話しあったことがある」と「ない」とはほぼ半々である。「話したことがない」という人には男性が多かった。

では、近所の人に限らず、もう少し広い範囲で、地域の生活環境についての不満や問題、これに対する役所の仕事などについて、話しあったことがあるかどうか、あるとすれば、おもに、どのようなところ、あるいは、どのような時に話しあって